

平成27年度 学校評価報告

27年度
学校教育努力点いき（生き・行き）がいにあふれる進歩の子
～自己肯定感を高め、確かな学力と豊かな心の育成を目指して～

実践のねらい

生徒一人一人が未来を切り拓くためには、知恵と自信を生む「確かな学力」と人間関係と毎日の生活に潤いをもたらす「豊かな心」が必要である。それらを育成していくことで生徒一人一人の自己肯定感を高め、学校に対する、いき（生き・行き）がいをもてるようにしたい。そして、自らの手で夢に向かって人生を切り拓く生徒を育てていきたい。

実践のねらいに迫るための手だて

- ・「確かな学力」の育成
確かな学力は、「学習の習慣を身につけた生徒」、「教師の適切な指導」、「教師の指導力向上」が不可欠であると考え。そこで、3年間を見通した計画的な学習指導で学び方の支援や分かる授業の実践、自ら進路選択ができる生徒の育成を目指して実践していく。
- ・「豊かな心」の育成
豊かな心の育成には、「やさしさやたくましさ」、「感動体験」、「集団の輪づくり」が必要不可欠であると考え。そこで、心を豊かにする道徳指導や生徒が主役になる学校行事、ふれあいを重視した交流活動などを実践していく。

実践の内容

- ・「確かな学力」の育成を目指して
学習指導においては、ティームティーチングを多く取り入れたり、一人一人の生徒に合わせた指導ができるように工夫している。また、教師一人一人が授業公開日を設定し、互いの授業を見合う場を設けることで指導力の向上に努めている。また、始業前の朝学習やテスト前の授業後の補習を行った。
- ・「豊かな心」の育成を目指して
『ふれあいを大切とした交流活動』として、名古屋盲学校との交流活動、地域の高齢者の方たちとの対話交流会を行った。今年度は、仲間づくり推進活動にも重点を置き、生徒同士の人間関係を円滑にする、ピアサポート活動や生徒会を中心とする、登校時のハイタッチ運動、希望の森の看板づくりなどを通して、生徒たちに温かな気持ちを育ませる活動を行い、仲間意識やいじめの撲滅、自己肯定感の高まりに努めた。また、今年度は道徳授業への意識向上や指導力向上を目的として、子ども応援委員と協働して、道徳の授業を行う試みをした。

成果と課題（生徒463名・保護者410名・教職員25名の学校生活アンケートの結果）

「確かな学力」に関わる教育では、前年度同様、学校では落ち着いた学習環境の中で授業が行われていること、行事や部活動を通して、楽しく充実した生活を送れていると多くの生徒・保護者・教職員が感じていることがわかった。しかし、約4人に1人の生徒が授業に対して課題を抱えていることや将来や進路に向けての意識が不足していることもわかった。「豊かな心」に関わる教育では、心の教育や人権教育への取り組みについて、保護者、生徒ともにわずかではあるが、前年度より高い評価を得ることができた。学校・学級が楽しいと言っている生徒や保護者は約85%おり、学校行事や部活動は、生徒にとっての「いきがい」となっている。教育相談やスクールカウンセラー、子ども応援委員会などの充実による効果もあると考えられる。しかし、生徒の約4人に1人は自分の考え方や生き方を振りかえることができていないことや生徒の約3人に1人は規則正しい生活が送れていないと自覚していること、生徒の約3割が今の自分自身に満足感を得られていないということも課題としてわかった。

学校評議員より

学校関係者評価としては、今年度も多くの生徒が「学校が楽しい」「行事や部活動に満足している」と言っていることはすばらしい。今の学校生活を見ていると、生徒にも教師にも時間的な余裕がなかなか見られない。しかし、学習補充の必要性や道徳教育の大切さは変わらない。今後も工夫しながら生徒のために取り組んでいただきたいとご意見をいただいた。

来年度に向けて

多くの生徒が落ち着いた学習環境の中で、楽しく学校生活を送れていると感じている。また、行事や部活動での評価は引き続き高いものがある。今後は、道徳教育の充実や仲間意識を一層推進することから、生徒の満足感をより高め、今の自分に満足感が得られていない約3割の生徒数を減らすことを目標とし、本校をいき（生き・行き）がいのある学びの舎にするべく課題改善に向けて取り組みたい。